



市議会 12月定例会 市長施政方針

「老若男女が安心して住める活力あふれるまちづくり」 実現のため七つの分野を中心に取り組みます

12月1日に市議会12月定例会が開かれ、近藤市長が今後4年間の市政運営についての方針を述べました。ここでは、その概要をお知らせします。

現在、全国の自治体、特に地方都市では、人口減少、少子高齢化など様々な社会問題を抱えています。さらには、国際情勢の影響を受け、TPPの展望も不透明感が漂うなど、地方経済を取り巻く状況も経過をさらに注意深く見ていくことが必要です。

安来市もその例外ではなく、速やかに対応しなければならぬ数多くの課題に直面しています。初当選以来、新しいまちを形づくっていく歴史的な時期に、3大事業をはじめ将来に向けた基盤整備などに一定の道筋をつけることができました。三度市政を担うことになり、全力で取り組む決意です。私が目指す「老若男女が安心して住める活力あふれるまちづくり」を実現するため、七つのまちづくりを中心に取り組みます。

①子育て・教育・文化・スポーツ振興の充実

人口の自然減を抑制するためには、市民が安心して子どもを生み



▲保護者の給食試食会（安来幼稚園）。今年度、給食センターからの配食がはじまりました。引き続き教育環境の整備を図ります。

育てられる環境づくりが重要です。これまで、安心して子どもを生み育てられるよう子育て支援の充実、少子化対策に取り組んできました。今後も保護者の経済的負担の軽減を図ることで子どもたちの健やかな育ちを支えるため、各種制度の充実に努めていきます。

②福祉・医療の充実

市の医療・介護人材の確保・育成支援や民間の力を活用した保健・医療・福祉、介護の充実に努めます。

人口減少と高齢者が増加する中で、市民が安心して暮らしていく

社会の確立が求められます。しかし、特に地方都市での医師をはじめとする医療従事者の不足と偏在、高齢化が深刻であり、地域医療を守っていくために、次代の医療の担い手を育成していきます。

③産業振興と雇用の場の確保

農業、商工業、観光振興など、地域資源を活かした産業振興に取り組み、若者が市内で働きたいと思える雇用環境を整備します。

④都市基盤の整備

市民のニーズにあった生活環境を整えることにより定住意識を高めていきます。

⑤安全・安心の確保

鳥取県中部を震源とする地震が発生し、大きな被害が発生しました。このような自然災害や原子力災害等に備えるため、市では毎年総合防災訓練を実施するなど、関係機関との連携を都度、確認しながら防災体制の充実に努めます。

⑥広域連携による

経済発展と地域振興

安来市は山陰地方の中核で人

口・産業が集積する「中海・宍道湖・大山圏域」とたたら製鉄で栄えた「鉄の道文化圏」という将来性の高い2つの圏域の結節点です。松江城国宝化や映画たたら侍の公開といった好機にスケールメリットを活かし、圏域全体がグレートアップするよう連携を進めます。

⑦積極的な行政改革の推進

将来にわたり必要な行政サービスを提供し、持続可能なまちづくりを実現するためには、安定した財政運営と、堅実な行政運営を必要とします。そのため、「社会の変化に対応した行政運営」「持続可能な財政基盤の確立」を基本目標とする、第3次行政財政改革大綱を着実に進めます。

経常経費の抑制や、公共施設等総合管理計画に基づく、公共施設の総量の適正化、予防保全による、長寿命化と財政負担の平準化を図っていきます。

※個別の項目は左のページをご覧ください。

7つのまちづくりの概要（施政方針）

子育て・教育・文化・スポーツ振興の充実

▼つどいの広場事業・子育て支援センター事業を通じ、乳幼児とその保護者の皆様が気軽に集う場を提供。
▼子育ての悩み解消や親子の交流、仲間づくりなどのきめ細やかな支援の充実。▼子育ての多様なニーズに対応するため、認定こども園への移行を図る。▼市内小中学校及び幼稚園・認定こども園・保育所に外国語指導助手を派遣し、子どもたちの国際感覚を育む事業を進める。▼中海ふれあい公園の整備は、平成31年度からの供用開始を目指す。中海の自然を感じながら過ごせる公園にする。▼教育環境の整備では、市内全ての小・中学校の普通教室にエアコンの設置を完了する。今後も教育環境整備に努めていく。▼就学支援を一層充実させ、ご家庭の負担軽減にも取り組む。

福祉・医療の充実

▼平成22年度から行っている市出身の医学生と看護学生を対象にした奨学金貸与事業を継続し、医療従事者の確保。▼医療介護の連携強化、在宅医療の推進、官民連携による医療体制の整備。▼「安来市立病院新改革プラン」策定に取り組み、市立病院の果たすべき役割を明確化し、地域医療の発展を目指す。

産業振興と雇用の場の確保

▼後継者および新規就農者などの担い手の確保を図る。大区画ほ場整備事業及び中山間地域総合整備事業などによる農業生産基盤の推進。▼集落の将来像を描く「集落ビジョン」の策定とその実践を基本に集落営農を推進。▼就農希望者を確保するため、地域の理解・協力を得ながら受入体制、農業の師匠、農地・住居をパッケージ化した事業を推進。▼林業の振興は循環型林業を進める。市産木材の生産量を増やすとともに、木質バイオマス燃料の生産・消費拡大などを行う。▼林業の活性化を通じ中山間地域の雇用の創出を目指す。▼たたら製鉄の技術を伝承する鉄鋼業等を核とした特殊鋼関連産業を県と共に進め、航空機産業等へ進出を図る企業に対する支援。▼新たな工業団地整備事業は、平成31年度中の分譲開始を目指し、ハード整備と並行し企業誘致にも取り組み、新たな雇用機会の創出に努める。▼観光誘客は、歴史的文化的に優れた世界に誇れる価値のある観光資源を広域連携で国内外に効果的な情報発信を進め、国内外の観光誘客を推進。

都市基盤の整備

▼安来道路の市街地西側へ車が簡単に乗り入れできるスマートインターチェンジが整備されることで、市を訪れる観光客の移動時間の短縮、物流の効率化、市内の渋滞緩和等の多大な効果が期待される。引き続き、関係機関と設置に向けた検討・協議を進める。▼圏域を構成する都市間を結ぶ道路は、他都市とのネットワーク機能の向上、混雑解消や緊急車両の機動性向上といった沿線地域の住民生活の改善に大きく寄与する。また、産業や観光、教育、医療等の分野での広域的機能連携を図るためにも、必要不可欠なインフラである。切川バイパスの早期開通はもとより、安来港飯島線道路改良、安来インター線、さらにはその延長上にある中海架橋の早期実現に向けて、関係機関とも一層連携を強化していく。

安全・安心の確保

▼地域防災は、消防団員の確保や自主防災組織の育成を図るとともに、拠点施設の整備にも取り組みながら、市民の皆様が日々安心して暮らしが送れるよう、災害・事故・犯罪対策を充実し、安全の確保に努める。▼現在建設中の安来庁舎は、最新の防災センター機能を配備し、有事の際は、消防庁舎や広瀬・伯太の各庁舎とも連携を取りながらこれまで以上に迅速な防災対応が可能となる。▼安来庁舎敷地内に整備を行う防災公園には、一時避難場所としての防災棟や炊事、トイレ機能等を計画している。

広域連携による経済発展と地域振興

▼「中海・宍道湖・大山圏域」は、引き続き市長会を組織し産業・観光・環境など様々な分野において事業を展開していく。▼「鉄の道文化圏」は日本遺産認定を弾みにブランド化を進めていく。

積極的な行財政改革の推進

▼新たな行政需要や市民ニーズに的確に応えていくためにも人件費の削減や、従来からの補助金の見直し、物件費の圧縮などを通して事業の再点検を行い、行政コストの削減を進める。▼民間の持つノウハウや専門性などを活かした事業、運営手法の導入をさらに進めながら行政運営に取り組むことにより、多様な行政需要に対応していく。

※総合文化ホール、富田城整備事業については他のページで紹介しているため省略しています。

